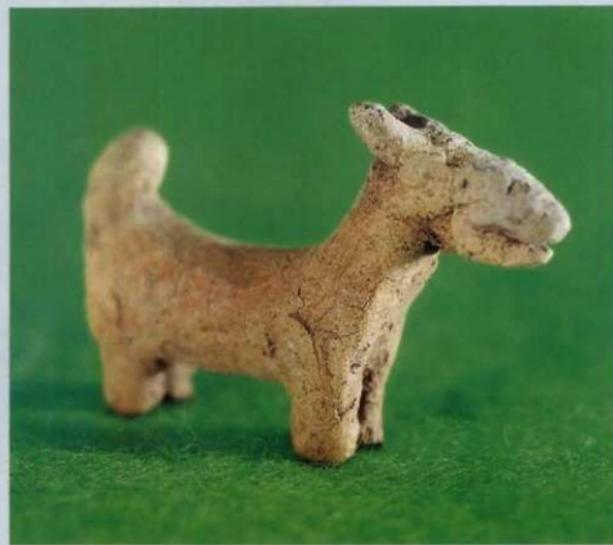


# 西原大塚の遺跡

西原特定土地区画整理事業に伴う

発掘調査概報



1998

埼玉県志木市遺跡調査会

西原特定土地区画整理事業組合

## はじめに

志木市遺跡調査会  
会長 秋山 太蔵

## 刊行にあたって

志木市西原特定土地区画整理組合  
理事長 清水 文雄

志木市は、おおむね南西部が武藏野台地と呼ばれる関東ローム層に覆われた台地と北東部が荒川などの河川によって形成された沖積地からなっていますが、中でも西原大塚遺跡は、この台地の縁辺部で市の南端に位置し、幸町に広がる面積17万m<sup>2</sup>にも及ぶ市内最大の遺跡となっています。

この遺跡は、昭和48年に志木市教育委員会、昭和55年には志木市史編さん事業のための発掘調査が行われたことなどにより、旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代・平安時代にかけての市内最大の複合遺跡として知られていましたが、十分な解明はなされていませんでした。

その後、志木市西原特定土地区画整理組合の区画整理事業が開始され、平成元年度から志木市遺跡調査会が組合から委託を受けて、この事業に伴う発掘調査を実施してきたところであります。

この発掘調査によって、それまで確認されていなかった遺構や縄文時代中期の硬玉製大珠、弥生時代後期の住居跡から犬の土製品、方形周溝墓からヒスイ・碧玉・ガラス玉でできた首飾りなど貴重な遺物が発見されています。

このような発掘調査の成果は、全事業終了後に調査報告書としてまとめる予定をしておりますが、この度、平成8年度の調査結果をまとめた発掘調査概報を刊行し、市民の皆様にその成果の一部をお知らせする運びとなりました。

本書の刊行にあたり、ご理解とご協力をいただきました開発者であります区画整理組合の役員をはじめ地権者の皆様、並びに発掘調査関係者各位に対しまして心より厚くお礼申し上げます。

おわりに、本書が多くの方々の埋蔵文化財に対する理解と啓発の一助となれば幸いに存じます。

西原地区では近時、狭小密度的な宅地造成、いわゆるミニ宅地と呼ばれる市街地の形成をみています。

本地区の地理的・社会的諸条件を考えると、今後も同様な傾向をたどるものと予想され、残されている未利用地を現状のままで放置すれば、環境不良な市街地になる恐れが十分にあります。

そこで、西原特定土地区画整理組合では、良好な居住環境を作るためには道路網の整備など、計画的な町づくりが必要という観点から土地区画整理事業を進めてきました。

ところで、区画整理地内には先住民の残した貴重な文化遺産である西原大塚遺跡があり、これを保存していくことが大きな課題となっていましたが、記録保存のための発掘調査を行うという形で問題を解決することにしました。

発掘調査は道路造成工事などに先立って平成元年度から開始し、6年間で約13,000 m<sup>2</sup>を終えていますが、縄文・弥生時代の住居跡や多数の遺物が発見され、修復された土器の収納場所もない程度になっていきます。

これも、多くの費用と時間を費やした成果であり、先住民の暮らしのさまを解説するために大きく役立つものと思われます。

昭和初期、本地区には多数の古墳がありました。食料難時代には多くが取り崩され廻となつた所もあります。今になって思うと残念でなりません。

権利者のご理解により、先住民の遺跡を掘り上げ、後世に伝えたいと思います。

## 目 次

はじめに

目 次

例 言

I. 遺跡の環境	1
II. これまでの調査の概要	1
III. 調査に至る経過	4
IV. 発掘調査の経過	4
V. 検出された遺構と遺物	5
繩文時代	5
弥生時代	12
VI. 概 括	15
住居跡・土坑・方形周溝墓一覧表	
調査組織	
報告書抄録	

## 例 言

1. 本書は、志木市西原特定土地区画整理事業に伴う平成8年度の発掘調査概要報告である。
2. 対象地は、志木市幸町3丁目3157番地他11筆、面積1,858.7m<sup>2</sup>である。
3. 発掘調査は、西原特定土地区画整理組合の委託を受け、志木市遺跡調査会が実施した。なお、埼玉県教育委員会からの通知は、平成8年7月10日付、教文第2-63号である。
4. 発掘調査は、平成8年6月13日から同年12月9日、平成9年1月10日から同年3月25日まで行った。
5. 本書の作成は志木市遺跡調査会が行った。編集・執筆は佐々木保俊があたり、挿図・図版の作成は執筆者の他に内野美津江・鈴木美佐江・宮川幸佳が行った。
6. 発掘調査及び本書の作成にあたっては次の諸機関・諸氏にご指導・ご協力をいただいた。記して感謝する次第である。(敬称略)

埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課・埼玉県立博物館・埼玉県立歴史資料館・埼玉県立さきたま資料館・埼玉県立埋蔵文化財センター・(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団・志木市教育委員会・志木市文化財保護委員会・志木市立郷土資料館

会田 明・浅野 春樹・麻生 優・荒井 幹夫・飯田 充晴・上田 寛・碓井 三子  
梅沢太久夫・江原 順・岡本 東三・織笠 明子・織笠 明・柿沼 幹夫・加藤 秀之  
隈本 健介・栗島 義明・小出 輝雄・肥沼 正和・小宮 恒雄・齊藤 裕司・笛森 健一  
塙野 博・斯波 治・白石 浩之・実川 順一・鈴木 一郎・鈴木加津子・鈴木 正博  
田代 隆・田中 英司・谷井 彪・坪田 幹男・照林 敏郎・中島岐視生・中島 宏  
中村 倉司・並木 隆・根本 靖・野沢 均・早川 泉・早坂 廣人・堀 善之  
松本 富雄・宮崎 朝雄・矢口 孝悦・柳井 彰宏・和田 晋治

西原大塚遺跡は、志木市幸町3丁目を中心とし、面積約170,000m<sup>2</sup>の市域最大規模の遺跡である。遺跡は柳瀬川を北西に見下ろす標高14~17mの台地縁辺部にあり、柳瀬川の低地とは8m程の差がある。

本遺跡は昭和48年の初めての発掘調査以来、散発的にではあるが調査が行われてきた。そして近

年、区画整理事業に伴う調査が継続的に行われるようになって、遺跡の詳細が徐々にではあるが明らかになりつつあり、旧石器時代、縄文時代前・中期、弥生時代後期・古墳時代前・後期、奈良・平安時代、中・近世の複合遺跡であることがわかつてきた。

本発掘調査は区画整理事業に伴う記録保存を目的としたもので、調査対象地は街路予定地が大部分で公園用地などを含む。

調査は平成元（1989）年度に第1次調査を実施し、中断を経て平成5（1993）年度から継続して行っている。これまでの調査で検出された主な遺構を年度別にみると、

平成元年度	弥生時代後期住居跡	8軒
平成5年度	縄文時代中期住居跡	1軒
	弥生時代後期住居跡	4軒
	中世地下式壙	1基
平成6年度	旧石器時代石器集中地点	2カ所

縄文時代前期住居跡	1軒	
縄文時代中期住居跡	1軒	
弥生時代後期住居跡	52軒	
弥生時代後期方形周溝墓	2基	
平安時代住居跡	1軒	
中世段切り遺構	1基	
平成7年度	旧石器時代石器集中地点	1カ所
	縄文時代中期住居跡	8軒
	弥生時代後期住居跡	41軒
	古墳時代後期住居跡	1軒
	奈良時代住居跡	1軒
(弥生時代後期には、古墳時代初頭も含めている)		



市内の地形と道路 (1/20,000)

### III 調査に至る経過

平成8年4月、西原特定土地区画整理組合（以下、区画整理組合）から志木市教育委員会（以下、教育委員会）に、土地区画整理事業の平成8年度の計画に係る埋蔵文化財の有無・取扱いについて照会があった。

計画は、志木市幸町3丁目3157、3231-1、3228、3229、3230、3150-1、3160、3161-1、3126-1、3129-1・3、3151-1、3152番地内に予定している道路建設（面積2,584m<sup>2</sup>）に関してであった。

教育委員会は、該当地が周知の埋蔵文化財包蔵地に含まれているため、記録保存のための発掘調

査を行う必要がある旨の回答をし、発掘調査を実施する組織として、平成元年度以来、継続して当土地区画整理事業に伴う発掘調査を行ってきた志木市遺跡調査会（以下、遺跡調査会）を斡旋した。

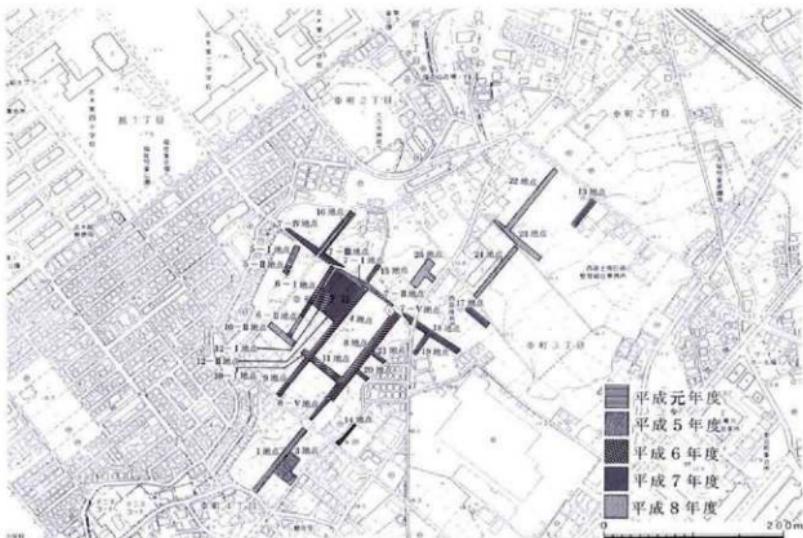
遺跡調査会ではこれを受け、平成8年6月11日に区画整理組合と委託契約を締結し、6月13日から発掘調査を開始した。

なお、調査開始後、農作物などの関係で3129-1・3、3151-1、3152番地が調査不可能となつたことと、新たに3107-2、3110-2番地の調査が必要になったために、平成9年3月5日に契約変更を行つた。

### IV 発掘調査の経過

22地点の発掘調査は平成8年6月13日から9月20日まで行った。検出された遺構は、旧石器時代の石器集中地点1、縄文時代中期後半の住居跡5

軒・埋甕1基、弥生時代末葉～古墳時代初頭の住居跡1軒・方形周溝墓1基、土坑36基である。なお、方形周溝墓は隣接する地点が同時に調査して



調査区位置図

いたため、その全貌を明らかにすることができた。

24地点の発掘調査は8月28日から9月27日まで行った。検出された遺構は、縄文時代中期後半の住居跡3軒・弥生時代末葉～古墳時代初頭の住居跡5軒・方形周溝墓1基、土坑17基である。

23地点の発掘調査は10月1日から12月9日まで行った。検出された遺構は、縄文時代中期後半の住居跡9軒・集石1基、弥生時代末葉～古墳時代初頭の住居跡5軒、土坑1基である。

10-II地点の発掘調査は平成9年1月10日から2月14日まで行った。検出された遺構は、旧石器

時代の石器集中地点1、縄文時代前期中葉の住居跡1軒、弥生時代末葉～古墳時代初頭の住居跡8軒、土坑13基である。

6-II地点の発掘調査は2月3日から2月18日まで行った。検出された遺構は弥生時代末葉～古墳時代初頭の住居跡9軒、土坑2基である。

25地点の発掘調査は2月13日から3月25日まで行った。検出された遺構は、縄文時代中期後半の住居跡4軒・弥生時代末葉～古墳時代初頭の住居跡2軒・方形周溝墓2基、土坑24基である。

## V 検出された遺構と遺物

### 縄文時代

#### 27号住居跡（22地点）

北側1/2弱は調査区外にある。平面形は隅丸方形を呈すると思われ、一辺460cmを測る。壁の高さは20~33cmでゆるやかに立ち上がり、壁下には壁溝が巡る。床面は北側に硬化面を残す。炉跡は埋甕炉。柱穴は深度のあるものが4本検出されたが、主柱は5~6本になるものと思われる。遺物は覆土上層に多くみられ、廃棄された状態である。覆土は自然堆積状態を呈する。時期は加曾利E II式期。

#### 31号住居跡（22地点）

平面形は梢円形を呈し、規模は680×620cmを

測る。壁の高さは59~114cmで急斜に立ち上がる。拡張住居で壁溝は東側が二重に巡る。床面は特に硬化している部分は認められなかつたが、掘り込みが深くハードロームを床面としているため非常に硬い。炉跡は埋甕炉。主柱は拡張前の段階で6本が考えられ、拡張に際して柱の移動がみられる。遺物は覆土上層から多く出土し、廃棄された状況を呈する。覆土は不整合に堆積していて、人為的に埋め戻された可能性が大きい。時期は勝坂式期。

#### 34号住居跡（23地点）

西側は1/4程が調査区外にある。平面形は円形を呈すると思われ、径500cmを測る。壁の高さ



27号 住居跡



31号 住居跡



遺構分布図 (1/300)

は21~24cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。壁下には壁溝が巡るが、北側が二重になる部分があり、住居の拡張が考えられる。床面は全体に軟弱であるが、炉跡の北側に僅かに硬化面が観察される。炉は埋甕炉である。柱穴は深いものもあるが、配列は不規則である。南壁下には埋甕が検出された。遺物の出土量は少ない。覆土は自然堆積状態を呈する。時期は加曾利E I式期。

36号住居跡（23地点）

平面形は隅丸方形を呈し、規模は550×520cmを測る。壁の高さは10~48cmで、急斜に立ち上がる。壁下には壁溝が巡るが、北側は一部二重になり拡張住居の可能性がある。床面は炉の周辺が部分的に硬化している。炉は埋甕炉。主柱は5本になると思われるが、柱の移動がみられる。遺物の多くは覆土上層から廃棄された状態で出土した。覆土は自然堆積状態を呈する。時期は加曾利E I式期。



31号 住居跡炉跡



34号 住居跡



34号 住居跡埋甕



36号 住居跡



37号 住居跡



37号 住居跡炉跡

## 37号住居跡（23地点）

西側1/2は調査区外にある。平面形は楕円形を呈するものと思われ、規模は計測できる部分で550cmを測る。壁の高さは10~19cmで、ゆるやかに立ち上がる。床面は全体に軟弱である。炉は石閉埋甕炉。主柱穴と思われるビットは4本検出さ

れたが、その間隔からみて6本柱となる可能性が大きい。遺物は覆土上層から多く出土し、焼棄された状況を呈する。覆土の堆積状態は擾乱部分が多く不明。時期は加曾利E I式期。



43号 住居跡

## 43号住居跡（10-I地点）

北半が調査区外にあるのと、弥生時代の住居跡に切られているため平面形は不明。規模は計測できた部分で350cmを測る。壁の高さは21~34cmで、ゆるやかに立ち上がる。壁下には壁溝が巡る。床面は軟弱である。炉は調査区外にあると思われる。柱穴は3本検出されたが、いずれも浅い。遺物は覆土中から僅かに出土した。覆土の堆積状態は弥生時代の住居跡に上半を破壊されているため不明。時期は黒浜式期。



住居跡出土遺物

## 154号土坑（22地点）

耕作により破壊されている部分もあるが、平面形は楕円形を呈するものと思われ、長軸137cm、深さ25cmを測る。坑底は平坦で壁はゆるやかに立ち上がる。南側に底部に穿孔された可能性がある埋設土器が検出された。時期は加曾利E I式期。

## 155号土坑（22地点）

平面形はほぼ円形を呈し、規模は178×175cm、深さ50cmを測る。坑底は平坦で壁はゆるやかに立ち上がる。遺物は東側に坑底から僅かに浮いた状態で出土した。時期は加曾利E I式期。

## 160号土坑（22地点）

平面形はほぼ円形で、規模は75×72cm、深さ35cmを測る。坑底な平坦でタライ状を呈する。坑内には土器片・礫が充満していた。時期は加曾利E I式期。

## 167号土坑（22地点）

平面形はほぼ円形で、規模は133×132cm、深さ50cmを測る。坑底は平坦でタライ状を呈する。遺物は坑底から浅鉢形土器、石皿の破片などが出土した。時期は加曾利E I式期。

## 168号土坑（22地点）

平面形は楕円形で、規模は132×95cm、深さ62cmを測る。坑底は平坦で壁は椀状に立ち上がる。



154号 土坑



155号 土坑



160号 土坑



167号 土坑



168号 土坑



170号 土 坑

遺物は坑底から浮いた状態で出土した。時期は勝坂式期。

#### 170号土坑 (22地点)

平面形はほぼ円形で、規模は $180 \times 170\text{cm}$ 、深さ80cmを測る。坑底は平坦で壁は急斜に立ち上がる。遺物は坑底から浮いた状態で出土した。時期は加曾利E I式期。



258号 土 坑

#### 258号土坑 (25地点)

平面形はほぼ円形で、規模は径140cm、深さ70cmを測る。坑底は平坦でタライ状を呈する。遺物は坑底から浮いた状態で出土した。時期は加曾利E II式期。

#### 259号土坑 (25地点)

平面形はほぼ円形で、規模は径140cm、深さ30cmを測る。坑底は平坦で壁はオーバーハングする。遺物は南側に坑底から浮いた状態で出土した。時期は加曾利E II式期。



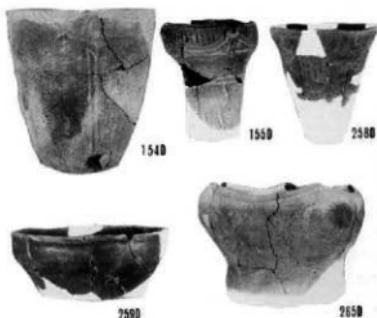
259号 土 坑

#### 265号土坑 (25地点)

平面形はほぼ楕円形で、規模は $240 \times 190\text{cm}$ 、深さ42cmを測る。坑底は平坦で壁はオーバーハングする。遺物は坑底から浮いた状態で多量に出土した。時期は加曾利E III式期。



265号 土 坑



土坑出土遺物

### 弥生時代

#### 128号住居跡（22地点）

北側1/4程は調査区外にある。平面形は楕円形を呈すると思われ、規模は短軸400cmを測る。壁の高さは8~25cmで、ゆるやかに立ち上がる。床面は全体に軟弱である。炉は地床炉。ピットは6本検出されたが配列は不規則である。遺物は住居西側にまとめて出土した。覆土は自然堆積状態を呈する。



128号 住居跡

#### 131号住居跡（24地点）

南側1/2程は調査区外にある。平面形は隅丸方形を呈すると思われ、規模は一辺440cmを測る。壁の高さは42~55cmで、急斜に立ち上がる。壁下には壁溝が巡る。床面は貼床されていてよく硬化している。炉は地床炉。主柱穴は各コーナーに1本ずつ検出された。遺物は床面上から僅かに出土した。覆土は埋め戻された感がある。



131号 住居跡

#### 136号住居跡（23地点）

平面形は隅丸方形で、規模は302×260cmを測る。壁の高さは10~12cmで、ゆるやかに立ち上がる。床面は炉の周辺に硬化面を残す。炉は地床炉。柱穴は検出されなかった。遺物の出土は少ない。



136号 住居跡

#### 139号住居跡（10-II地点）

北側コーナー部分は調査区外にある。平面形は隅丸長方形で、規模は700?×520cmを測る。壁の高さは14~45cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。壁下には壁溝が巡る。床面は壁際を除きよく硬化している。炉は調査区外にあろう。主柱は4本になると思われ、各コーナーに1本ずつ検出された。東コーナーには貯蔵穴とそれに伴う凸堤が確認された。遺物の出土は少ない。覆土は不規則な堆積状態で、埋め戻された可能性が大きい。



139号 住居跡

#### 151号住居跡（10-II地点）

西壁の一部が調査区外にある。平面形は隅丸長



151号 住居跡

方形で、規模は $370\times320\text{cm}$ を測る。壁の高さは39～50cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。壁下には壁溝が巡る。床面は貼床されていてよく硬化している。炉は地床炉。柱穴は検出されなかった。東コーナーには貯蔵穴とそれに伴う凸堤が確認された。土器の出土は多いが破片の状態である。また、床面上には炭化材が散乱していた。覆土は不規則な堆積状態で、埋め戻された可能性が大きい。焼失家屋である。



158号 住居跡

## 158号 住居跡（6-II地点）

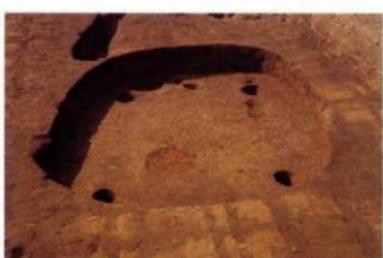
東・西壁の一部が調査区外にある。平面形は隅丸長方形で、規模は $500\times430\text{cm}$ を測る。壁の高さは41～58cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。床面は壁際を除いてよく硬化している。炉は地床炉。主柱は4本で、各コーナーに柱穴が検出された。北東コーナーには貯蔵穴とそれに伴う凸堤が確認された。遺物は床面上から僅かに出土した。覆土は不規則な堆積状態で、埋め戻された可能性が大きい。



161号 住居跡

## 161号 住居跡（6-II地点）

北側は調査区外にある。平面形は隅丸方形と思われ、規模は一边 $310\text{cm}$ を測る。壁の高さは25～31cmで、急斜に立ち上がる。床面は壁際を除きよく硬化している。炉は地床炉。南壁下中央に入口施設と思われるピットが検出された。遺物は少ない。覆土は自然堆積状態である。



163号 住居跡

## 163号 住居跡（25地点）

平面形は隅丸長方形で、規模は $438\times400\text{cm}$ を測る。壁の高さは46cm前後で、ほぼ垂直に立ち上がる。床面は全体に軟弱である。炉は地床炉。主柱は4本で、各コーナーに柱穴が検出された。南コーナーには貯蔵穴とそれに伴う凸堤が確認された。遺物の出土は少ない。覆土は不規則な堆積状態で、埋め戻された可能性が大きい。



4号方形周溝墓

## 4号方形周溝墓（22地点）

隣接する地点を調査する機会に恵まれたため、全体を把握することができた。周溝部は南北1230cm・東西1180cm・上幅90~160cm・下幅30~70cm・深さ60~90cmの規模をもつ。主体部はほぼ中央にあり、南北に長軸をもつ2基が検出された。東側のものは長軸235cm・短軸90cm・深さ15cm、西側のものは長軸255cm・短軸85cm・深さ20cmを測る。溝内の遺物には壺形土器・高环形土器などがあり、その多くは北及び東コーナー付近に溝底から浮いた状態で出土した。主体部からはガラス玉が2個出土している。

## 8号方形周溝墓（25地点）

南側は調査区外にある。周溝部は東西800cm・上幅50~70cm・下幅30~40cm・深さ25~55cmを測る。主体部は検出されなかった。遺物は土器片が僅かに出土した。



4号方形周溝墓遺物出土状態



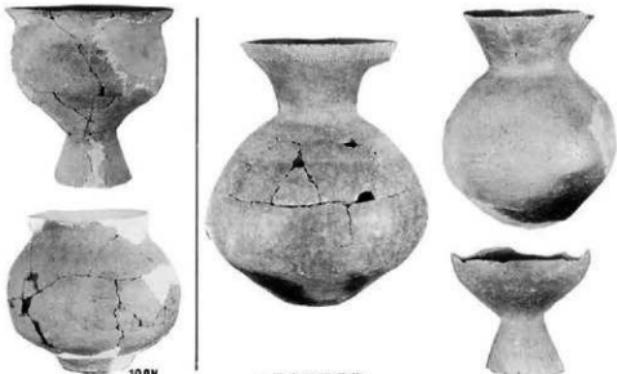
8号方形周溝墓



9号方形周溝墓

## 9号方形周溝墓（25地点）

平面形は西側に溝がない「コ」字形を呈する。また、南東コーナー部分は途切れる。周溝部は南北840cm・上幅60~80cm・下幅40~50cm・深さ11~34cmを測る。主体部は検出されなかった。遺物は土器片が僅かに出土した。

4号方形周溝墓  
住居跡・方形周溝墓出土遺物

## VI 概括

今年度は6地点の発掘調査を行ったが、位置的にみると22~25地点は遺跡中央の北寄り、6-II・10-II地点は遺跡の西端にあり、距離にして300m程の隔たりがある。

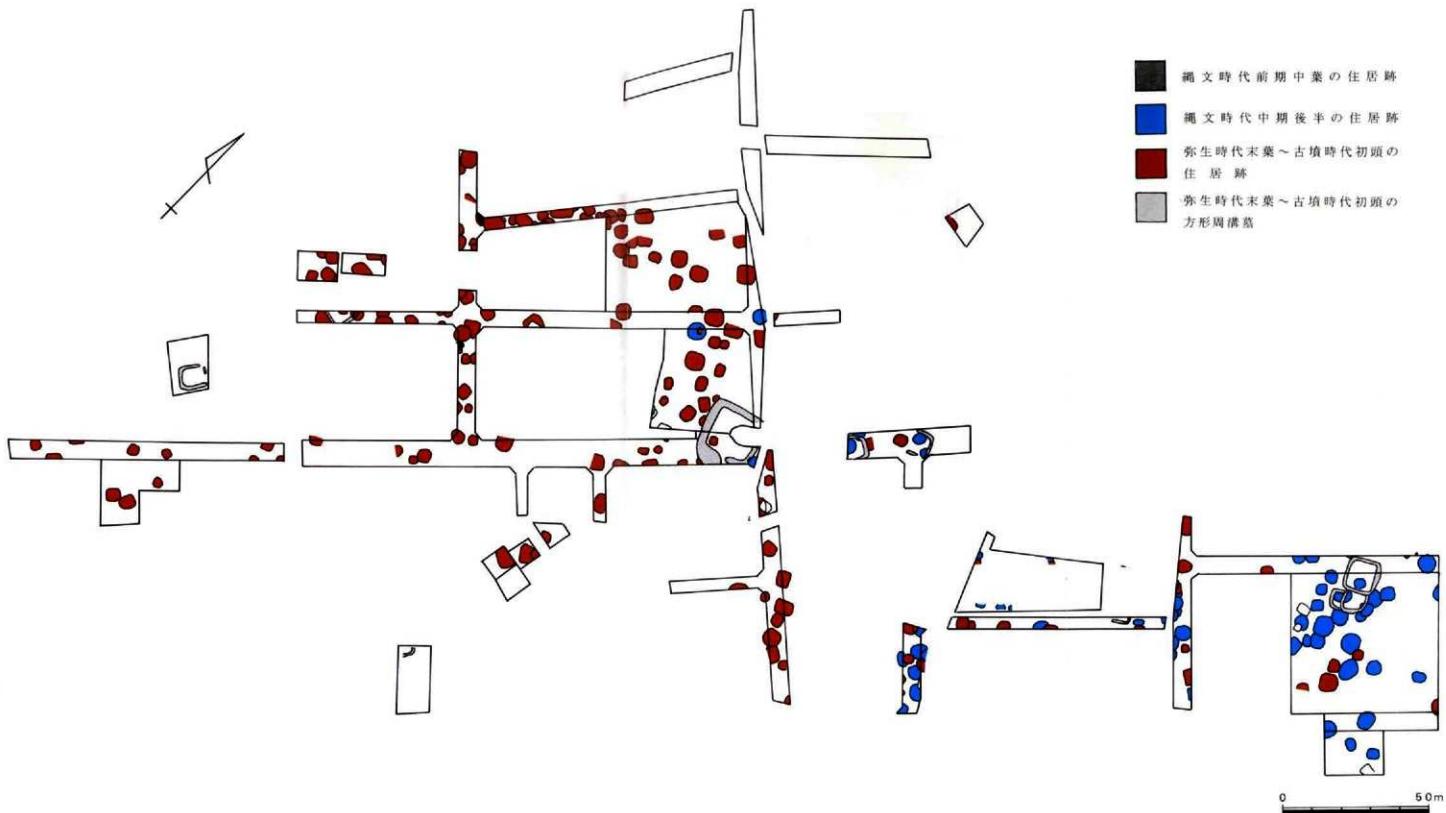
ここで両者の主な検出遺構をあげてみると、前者では縄文時代中期後半の住居跡21軒・土坑85基、弥生時代末葉～古墳時代初頭の住居跡13軒・方形周溝墓4基、後者では縄文時代前期中葉の住居跡1軒、弥生時代末葉～古墳時代初頭の住居跡17軒がある。

次ページは、これまでの発掘調査によって判明した主要遺構の分布概念図である。

縄文時代中期後半の住居跡群は遺跡のほぼ中央にあり、環状集落を予想させる配列をとる。また、今年度の調査で該期の土坑の集中域が判明したことは、集落構成を考えるうえで大きな成果である。

前期中葉の住居跡は2軒目の発見であり、遺跡の西端に小規模な集落があったようである。

弥生時代末葉～古墳時代初頭の住居跡群は遺跡の全面に分布しているが、6-II・10-II地点付近に特に集中している感がある。また、方形周溝墓に関しては、おむね3群に分けられる。時期的な問題や住居跡との関係も含めて、今後、検討してゆく必要がある。



縄文時代前・中期、弥生時代末葉～古墳時代初頭の主要造構分布概念図

# 住居跡一覧表

縄文時代

番号	地點	時期	平面形	長軸×短軸(cm)	深さ(cm)	炉跡	備考
26	22	加曾利E	楕円形	不明×450	12~18	地床炉	
27	22	加曾利E II	圓丸方形?	不明×460	20~33	埋甕炉	床面に配石
28	24	加曾利E II	不明	不明	15~21	石閉理甕炉	
29	24	加曾利E II	不明	不明	不明	地床炉	炉跡とピットのみ
30	22	勝坂	不明	不明	70~80	不明	拡張
31	22	勝坂	楕円形	680×620	59~114	埋甕炉	拡張
32	22	加曾利E	不明	不明	16~20	不明	
33	24	加曾利E III	不明	不明	14~21	不明	
34	23	加曾利E I	円形?	500×不明	21~24	埋甕炉	埋甕・拡張
35	23	加曾利E	不明	不明	19~22	不明	
36	23	加曾利E I	楕円形?	550×520	10~48	埋甕炉	拡張
37	23	加曾利E I	不明	550×不明	10~19	石閉理甕炉	
38	23	勝坂	不明	不明	21~25	不明	
39	23	勝坂	不明	不明	10~32	地床炉	
40	23	中期	不明	不明	14~26	不明	
41	23	中期	不明	不明	10~23	不明	
42	23	中期	不明	不明	13~15	不明	
43	10-II	黒浜	不明	不明×350	21~34	不明	
44	25	加曾利E I	圓丸方形?	不明×353	15~25	埋甕炉	
45	25	加曾利E	不明	不明	不明	地床炉	炉跡とピットのみ
46	25	中期	不明	不明	不明	地床炉	炉跡とピットのみ
47	25	中期	不明	不明	不明	地床炉	炉跡とピットのみ

弥生時代末葉～古墳時代初期

番号	地點	時期	平面形	長軸×短軸(cm)	深さ(cm)	炉跡	備考
128	22		楕円形	不明×400	8~25	地床炉	
129	24		圓丸方形?	365×359	1~29	地床炉	
130	24		楕円形?	不明×260	4~28	地床炉	
131	24		圓丸方形?	不明×440	42~55	地床炉	
132	24		不明	不明	2~19	地床炉	
133	24		不明	不明	20~22	不明	
134	23		圓丸方形	490×不明	2~14	地床炉	
135	23		不明	312×不明	12~15	地床炉	
136	23		圓丸方形	302×260	10~12	地床炉	
137	23		不明	不明	21~24	地床炉	炉横に隙
138	23		圓丸方形?	550×不明	20~23	地床炉	
139	10-II		圓丸長方形	不明×520	14~45	不明	149Yを切る
140	10-II		不明	不明	12~25	地床炉	
149	10-II		不明	不明	1~26	地床炉	139Yに切られる
150	10-II		圓丸方形	370×不明	39~50	不明	153Yを切る
151	10-II		圓丸長方形	370×320	39~50	地床炉	焼失家屋
152	10-II		圓丸方形?	不明	14~20	不明	
153	10-II		不明	不明	45~54	粘土火皿	150Yに切られる
154	6-II		不明	不明	10~23	地床炉	156Yを切る
155	6-II		不明	不明×300	8~30	不明	
156	6-II		不明	不明	28~41	不明	154Yに切られる
157	6-II		不明	不明	34~37	不明	156Yを切る
158	6-II		圓丸長方形	500×430	41~58	地床炉	157Yを切る
159	10-II		不明	不明	9~13	地床炉	160Yに切られる
160	6-II		圓丸長方形	不明×670	15~43	粘土火皿	162Yを切る
161	6-II		圓丸長方形	不明×310	25~31	地床炉	158Yに切られる
162	6-II		不明	不明	35~45	不明	160Yに切られる

番号	地點	時期	平面形	長軸×短軸(cm)	深さ(cm)	炉跡	備考
163	25		隅丸長方形	43.8×4.0	4.5~4.7	地床	灰
164	25		隅丸長方形	不明×4.20	1~11	粘土	火圓
53	6-II		隅丸方形?	8.30×不明	4.5~6.8	不	明

1994年度に一部調査

土坑一覧表

番号	地點	時期	平面形	規格(長軸×短軸×深さcm)	備考
148	22	加曾利E II	楕円形	13.5×12.0×2.5	
149	22	加曾利E	円形	7.5×7.5×3.3	
150	22	勝坂?	楕円形	10.4×8.7×3.0	
151	22	加曾利E II	楕円形	10.0×不明×4.0	
152	22	勝坂	楕円形	17.0×12.0×2.5	
153	22	加曾利E I	円形	16.5×15.0×3.7	
154	22	加曾利E I	楕円形	13.7×不明×2.5	埋甕
155	22	加曾利E I	円形	17.8×17.5×5.0	
156	22	不 明	楕円形	9.8×不明×2.0	
157	22	加曾利E II?	不 明	不明×不明×2.0	
158	22	加曾利E	楕円形	14.5×11.0×1.8	
159	22	加曾利E	円形	13.0×不明×2.0	
160	22	加曾利E I?	円形	7.5×7.2×3.5	
161	22	加曾利E	不 明	不明×11.7×2.0	
162	22	不 明	楕円形	9.2×7.8×3.0	
163	22	勝坂	楕円形	9.0×7.6×2.2	
164	22	加曾利E I?	楕円形	6.8×5.5×2.5	
165	22	加曾利E	不 明	1.9.5×不明×4.5	
166	22	加曾利E	円形	10.5×9.5×2.0	
167	22	加曾利E I	円形	13.3×13.2×5.0	
168	22	勝坂	楕円形	13.2×9.5×6.2	
169	22	加曾利E I	不 明	9.0×不明×2.8	
170	22	加曾利E I	円形	18.0×17.0×8.0	
171	22	勝坂	円形	14.5×14.2×6.5	
172	22	加曾利E I	楕円形	21.5×14.5×6.0	
173	22	不 明	楕円形	4.9×不明×4.7	
174	22	加曾利E II	楕円形	9.5×7.1×2.0	
175	22	加曾利E	円形	13.5×13.5×2.2	
176	22	加曾利E	円形	11.1×10.0×3.4	
177	22	不 明	不 明	不明×不明×5.0	
178	22	加曾利E II	楕円形	不明×9.5×2.0	
179	22	加曾利E	楕円形	不明×5.9×1.7	
180	22	加曾利E I?	椭円形	10.5×9.8×1.0	
181	22	勝坂	楕円形	4.5×4.0×2.7	
182	22	勝坂	不 明	不明×4.0×7.0	
183	24	加曾利E I	方形?	11.5×不明×3.0	
184	24	加曾利E	円形	2.00×1.90×9.5	
185	24	不 明	円形	8.0×8.0×3.0	
186	24	不 明	楕円形	11.6×不明×2.5	
187	24	不 明	方 形	7.5×7.3×7.1	
188	24	加曾利E II	楕円形	15.0×11.5×4.0	
189	24	加曾利E II	円形	12.0×11.3×5.0	
190	24	加曾利E II	円形	15.0×11.0×9.0	
191	24	加曾利E II	円形	13.5×12.5×3.9	
192	22	加曾利E I	楕円形	不明×8.2×8.3	
193	24	加曾利E II	楕円形	16.5×14.5×3.5	
194	24	加曾利E II	隅丸方形	12.0×11.5×4.2	

番号	地點	時期	平面形	規格(長軸×短軸×深さcm)	備考
195	24	加曾利E II	楕円形	2.50×11.3×3.9	
196	24	勝坂	楕円形	1.25×9.0×1.0	
197	24	不 明	不 明	不明×不明×4.2	
198	24	不 明	楕円形	1.00×8.3×4.5	
199	24	不 明	楕円形	1.00×8.0×3.0	
200	24	加曾利E II	不 明	1.80×不明×3.2	
228	23	不 明	不 明	1.4.3×不明×1.2	
229	10-II	不 明	円形	1.4.0×14.0×3.0	
230	10-II	不 明	不 明	不明×9.8×3.5	
231	10-II	不 明	不 明	不明×不明×2.2	
232	10-II	不 明	楕円形	1.70×11.0×2.6	
233	10-II	不 明	不 明	不明×10.5×2.7	
234	10-II	不 明	不 明	不明×10.0×4.2	
235	10-II	不 明	楕円形	1.25×10.5×1.6	
236	10-II	不 明	楕円形	不明×11.0×1.3	
237	10-II	不 明	円形	5.5×5.0×9	
238	10-II	不 明	不 明	不明×不明×1.6	
239	10-II	不 明	楕円形	1.50×11.8×2.3	
240	10-II	不 明	楕円形	1.30×9.6×5.0	
241	10-II	不 明	楕円形	1.80×16.0×2.5	
242	6-II	不 明	不 明	不明×12.0×4.0	
243	6-II	不 明	円形	1.10×10.0×4.1	
244	2.5	加曾利E II	円形	1.00×10.0×3.5	
245	2.5	中 期	楕円形	7.0×5.0×2.5	
246	2.5	弥生?	溝状	3.52×7.6×6.0	
247	2.5	加曾利E II	円形	1.60×16.0×5.0	
248	2.5	加曾利E	不 明	不明×12.5×2.5	
249	2.5	加曾利E II	不 明	不明×16.0×4.0	
250	2.5	加曾利E	円形	7.0×7.0×1.4	
251	2.5	加曾利E	円形	1.10×11.0×2.5	
252	2.5	加曾利E II	不 明	1.00×不明×1.8	
253	2.5	加曾利E II	円形	1.70×17.0×4.5	
254	2.5	加曾利E II?	不 明	1.10×不明×2.5	
255	2.5	加曾利E II?	楕円形	1.75×15.0×3.5	
256	2.5	加曾利E II	楕円形	1.40×11.6×3.7	
257	2.5	加曾利E III	楕円形	1.60×15.0×4.0	
258	2.5	加曾利E II	円形	1.15×11.5×7.0	
259	2.5	加曾利E II	円形	1.40×14.0×3.0	
260	2.5	加曾利E II	円形	1.45×14.0×5.0	
261	2.5	加曾利E	円形	1.20×11.0×1.7	
262	2.5	不 明	不 明	1.00×不明×1.2	
263	2.5	加曾利E II	円形	1.25×12.5×3.0	
264	2.5	加曾利E	楕円形	6.8×5.5×3.0	
265	2.5	加曾利E III	楕円形	2.40×19.0×4.2	
266	2.5	加曾利E II	円形	1.50×15.0×1.9	
267	2.5	加曾利E III	不 明	不明×不明×2.3	

方形周溝墓一覧表

番号	地點	時期	長辺×短辺	上 幅	下 幅	深さ(cm)	主 体 部	備 考
4	2.2		1230×1180	90~160	30~70	50~90	2基検出	ガラス玉
7	2.4		不明×550	40~50	20~30	29~55	不 明	
8	2.5		800×不明	50~70	30~40	35~55	不 明	
9	2.5		840×不明	60~80	40~50	11~34	不 明	

